

黒島博治 くろしま ひろぢ 小説家。明治二十一年十一月十一日青川縣生れ。昭和十八年十月十七日没（二八六一一九四三）。早稲田大學中退。シベリヤ出兵に應召し、病を獲く除役。大正十四年雑誌『潮流』、翌年『文藝戦線』同人。日本プロレタリア藝術聯盟、労働教育芸術家聯盟を經て日本プロレタリア作家同盟（略稱チルポ）中央委員。

著書『續作家最近傑作選集』（合著・山崎今朝瀧編、大正十五年十一月二十日解放社『解放群書』）、『戦争に對する戦争』（ヤンチ・ミリタリズム小説集）（合著・日本左翼文藝家總聯合會藏原惟人編、昭和二年五月二十五日南東書院）、『プロレタリア藝術教程・第一輯』（合著・饒平名哲太郎編、昭和四年七月一日世界社）、『氷河』（昭和五年一月五日日本評論社『日本プロレタリア傑作選集』）、『パン子ザン・サオルコフ』（昭和五年二月二十八日天人社『現代暴露文學選集』）、『雪のシベリヤ』（昭和五年六月五日天人社『現代暴露文學選集』）、『浮動する地價』（昭和五年七月二日改造社『新鋭文學叢書』）、『渦巻ける鴉の群世二篇』（昭和二十八年二月五日岩波書店『岩波文庫』）、『武装せる市街』（昭和二十八年七月十五日青木書店『青木文庫・日本プロレタリア文學體裁』）、遺稿『軍隊日記一星の下まじ』（青井繁治編、昭和二十年一月十五日理論社）、『セメント樽の中の手紙・入ま殺す犬・電報・線路下夫』（葉山 喜樹 小林多喜二 合著、昭和 昭和十四年五月二十日零書房『雨の日文庫・昭和戦前篇』）等。



本文字  
戦前篇